

播磨町歴史 NEWS

まちの発展と文化財にまつわる秘話などを歴史ニュースとして紹介します。

▶問合せ 播磨町郷土資料館 学芸員 渡辺昇 ☎079 (435) 5000

幻の阿閑城跡

— 本荘蓮花寺構居跡の発掘調査 —

室町時代の後半は戦国時代と呼ばれ、各地で戦いが繰り返されていました。東播磨も例外ではなく、天下統一に向けた織田信長と毛利氏など対抗勢力に挟まれ、戦乱の場となっていました。しかし、他地域と比べるとその遺跡は少なく、明らかな城跡も播磨町には存在しません。その中で唯一記録に残るのが阿閑城です。当初、東播磨は織田方についていましたが、毛利方に寝返った三木城主別所長治に対抗して、織田方の別所重棟が守る居城が阿閑城です。天正6(1578)年、約440年前のことです。阿閑城の攻防が信長方を有利に導いた画期的な戦いでした。阿閑荘のどこかに築城されたのですが、その位置は明確ではありません。候補地は町内に4カ所あります。古田の古向福勝寺構居跡、北本荘の本荘蓮花寺構居跡、野添の鹿ノ川構居跡、宮西の宮西構居跡です。その中の1つ本荘蓮花寺構居跡をはじめて発掘調査しました。

本荘蓮花寺構居跡は昭和37年に土地改良事業が行われるまで濠が残っていました。地



▲調査区と蓮花寺

元の方々の記憶に残り、地籍図や空中写真などでも明らかです。その濠を再確認し、底や肩部から陶磁器などが出土しました。阿閑城の時代そのものずばりの遺物は認められず、残念ながら阿閑城と断定する資料もありませんでした。備前焼や京焼などが出土し、本荘貝(ウチムラサキ)も出土しています。戦国時代の遺構以外に弥生～古墳時代の集落跡であると判明したことも大きな成果です。大中遺跡と同じ時代の遺跡で、イダコ壺などが出土しました。



▲本荘蓮花寺構居跡周辺航空写真(1961年)



▲堀全景



▲堆積写真

播磨ふれあいの家だより

「竹田まちなみ散策と大將軍杉～竹田城跡を望む」参加者募集

竹田城跡のカメラスポットは「立雲峡」が知られていますが、もうひとつ「藤和峠」のカメラスポットがあります。その「藤和峠」へ行き、近くの「大將軍杉」を見学したのちに、城下町竹田のまちなみ散策をします。「寺町通り」はお寺や小川、石橋などが歴史を感じさせてくれます。また、竹田駅周辺の通りには旧家を改造したカフェやお土産屋さんなど、次々とお店ができています。歴史ある城下町のまちなみを散策して、古き良き時代にタイムスリップしてみたいはいかがですか？(注)竹田城跡には登りません。

▶出発日 7月4日(月)、7日(木)、12日(火)

▶費用 3,500円(昼食込)

▶行程 土山駅10:00→播磨町役場10:10→各コミセン→市川PA11:00～11:10→ふれあいの家11:45～12:30→藤和峠～竹田まちなみ散策13:00～15:00→但馬のまほろば15:15～15:45→各コミセン→播磨町役場→土山駅17:30

※昼食は播磨ふれあいの家で召し上がっていただきます。

※キャンセルは2日前までをお願いします。

※最低催行人員 10人



ドライブがてら「佐中千年家(朝来市佐囊1283)」はいかがですか？

足利時代に建築された重厚な草葺屋根の古い家で、通称：佐中の千年家とも呼ばれています。この進藤邸は明治維新で活躍した原六郎(明治・大正時代の日本財界に君臨した渋沢、安田、大倉、古河などと共に「日本財界5人男」といわれた実業界の大物と呼ばれていました)の生家であり、最近はややカメラスポットとして多くの方が訪れます。



▶申込み・問合せ 播磨ふれあいの家 ☎079 (678) 1481 朝来市多々良木1244-1

よく学び よく育つ

ふれあいルーム 若松 育雄
一人の子どもを育てるには村中の大人が必要である

子どもたちを健全に育てるためには家庭・学校・地域社会の三者の教育が必要である。随分昔から論議されているところですが、今後とも変わらない教育課題だと思います。しかし、「地域」とはなんでしょうか。具体的に何を指すのでしょうか。

「自治会である」という答え方もあります。また「各地域のコミュニティセンターである」とも、シニアクラブであり、婦人会・子ども会といった諸集団であり、祭りなど、その地に根ざす様々な文化そのものである等々の答えもあるでしょう。

では、なぜ地域の教育力が重要なのでしょうか。それは、抽象的に言えば家庭・学校という「点」の教育を子どもたちのすべてを覆う「面」という広さのある教育に変えるためであり、家庭・学校の教育を補完するためであると考えられると思います。二人の子どもを育てるには

村中の大人が必要である」ということわざがアフリカにあるそうです。

教育理念はどの地にあっても同じだと感懐を持ちますし、それ自体知恵深いことわざです。

このことわざの「村中」というのが、「地域」だと私は思います。

子どもたちを健やかに育てるためには、地域の教育力はあらゆる地で不可欠なのでしよう。

しかし、年を経て、私は現に地域に住まれる多くの方々が、例えば挨拶運動や登下校指導といった具体的な場面で、また切に地域の子どもの豊かな成長を望んでいることを目の当たりにしてきました。そうした思いであり、行動が「地域の教育力」であるうと思っています。

「地域の教育力とは何か」という議論も時に必要でしょう。ただ、目の前の子どもの成長を願う「大人の思いや行動をもう一歩前へ進めること、朝会う人みんなに「おはよう」と言えること、「おかえり」と言えること、それらが「地域」を「村中」に変えることかもしれません。できることから一歩前へ。心がけなければならぬことだと思います。